

令和8年1月9日  
大阪公立大学医学部附属病院

## 気管切開チューブの交換時に発生した低酸素血症により心肺停止を起こし 遷延性意識障害に至った事例

当院において、気管切開チューブを挿入する際、添付文書に記載された方法で使用せずに挿入され、位置不良となり、再度気管切開チューブの入れ替えが行われました。その際、一度目の挿入時に生じた気管損傷により、挿管チューブが縦隔内に迷入し、気管切開チューブの再挿入に難渋しました。そのため、低酸素血症から心肺停止に至りました。低酸素血症が主要因による遷延性意識障害となった事例が発生しましたことをご報告いたします。

この事例におきまして、緊急で医療安全に関する会議を開催し、検討を行いました。その結果、以下の2つの対策を行うことで、再発防止に取り組んでおります。

- ① 侵襲の高い処置・治療を経験年数が浅い医師が行う際、必ず手技を熟知した医師が指導できる体制で、処置・治療を行うこと
- ② 慣れていない医師が行う際、事前に手順の確認やシミュレーションを実施すること

患者さん、ご家族の方をはじめ関係者の皆様には、今回このような事態を招いたことを深くお詫び申し上げますとともに、今後の再発防止に努めて参ります。